



ごあいさつ

本日はご来場いただき誠にありがとうございます。

金沢美術工芸大学芸術学専攻では、理論と実践を通して専門知識や思考力を養い、芸術の裾分野に関する研究を行います。

本展では4年間の集大成として、卒業研究の成果を展示しています。私たちは約1年間に渡り、各々の興味関心に基づいて独自の調査を進めてきました。研究テーマはジャンル、年代問わず様々で、ひとつとして同じものはありません。新型コロナウイルスの影響により実物・現地調査が困難な状況ではありましたが、卒業生一同が研究を遂行し、このような形で展示できたことを非常に嬉しく思います。

本展では、研究の成果をまとめた論文はもちろんのこと、私たちの研究により興味を持っていただきたいという思いから各論文を紹介するパネルも展示しています。また、今回は展覧会に際して卒業生同士で論文を読み、レビューとしてお互いに意見や感想文を書き合いました。こちらも参考にしながら、ぜひ論文を読んでみてはいかがでしょうか。

最後に、私たちが研究を進めるにあたってご指導いただいた先生方や多くの方々にこの場を借りて改めて感謝申し上げます。

令和4年 芸術学専攻4年生一同

研究の方法

研究テーマや調査対象が一ひとり違うのと同様に、それぞれの調査の進め方も多様多様です。今回は、約1年間に及ぶ卒業研究の中で、私たちが行った主な研究の方法をいくつかご紹介します。

読む 自分が研究したい内容が書かれた文献や先行研究から情報を得る。

聞く 情報を知る人・研究者に質問やインタビューをする。

見る 作品や映像、当時の貴重な原物資料を自分の目で確認する。

体験する ワークショップやオンラインイベントに参加して体験する。

行く 研究対象の建築や場所、芸術祭などに実際に訪れて調査する。

頼る 研究に行き詰ったら指導担当の教員まで相談に行く。



卒業制作展 展示の様子



2021年度 金沢美術工芸大学 芸術学専攻 卒業研究発表会 2022.2.26(土) 金沢21世紀美術館 レクチャーホール

タイムスケジュール	
1	伊藤 結緒 10:00 東京における教育機関の移り変わりについて(新卒院員の覚悟 - 一場面、様式から新卒院員まで)
2	鈴木 紅羽 10:30 日本刀の在り方の変化と、美術工芸品としての存続 休 幕 (10分)
3	滝野澤 風花 11:10 染め分野におけるオールオーバー概念 - オールオーバー概念を用いた工芸領域の拡大 -
4	遠山 裕葉 11:40 戦後の歴史に習った山形県酒造業と新入りに対する空間の比較 - 高級酒造業の歴史を軸として - 休 幕 休 幕 (50分)
5	新留 璃子 13:10 「恩物」を通して見る20世紀前半の芸術表現 - 日本におけるフレーベル思想の受容と文化への影響を中心として -
6	松田 真里和 13:40 びんがアートと美術
7	松田 真里和 14:10 泉原からみる人々の生活様式 - 衛生観と酒の需要との関わり -

卒業制作展 発表スケジュール

日本刀の在り方の変化と、美術工芸品としての存続

芸術学専攻4年 1818003 鈴木紅羽

章立て

はじめに

第1章 日本刀の受容の変化

第1節 日本刀が持つ複数の役割・意味

第2節 時代による日本刀の需要の変化

第2章 幕末・明治期の外国人から見た日本刀

第1節 V&A と The Met の日本刀コレクション

第2節 コレクションの傾向の考察

第3章 現在の日本の若者から見た日本刀

第1節 美術工芸品としての日本刀の現状

第2節 いわゆる「刀剣ブーム」について

第3節 鉄の展示館での取り組み

おわりに

鈴木紅羽

「恩物」を通して見る 20世紀前半の芸術表現

—日本におけるフレーベル思想の受容と文化への影響を中心として—

金沢美術工芸大学 芸術学専攻4年 1818009 新留璃子

序章 本研究の概要とフレーベル研究の現状

第1節 研究目的

第2節 研究の動機と背景

第3節 研究意義

第4節 研究方法

第一章 フレーベルの教育思想と恩物

第1節 生涯と思想の形成

第2節 幼児教育の理念

第3節 恩物の体系と内容

第4節 芸術表現と関連する教育理念の検討

第二章 日本におけるフレーベル思想の受容と浸透

第1節 幼稚園の開設と恩物の導入

第2節 恩物の批判 - 明治30年代以降

第3節 恩物の改良と積木の普及 - フレーベル館の活動

第三章 フレーベル思想の日本の文化への影響

第1節 先行研究の検討

1) Inventing KINDERGARTENにおける指摘

2) 岡崎乾二郎「抽象の力」での指摘

第2節 雑誌に見る恩地の表現の変遷 - 「月映」での活動

2) 内部感情の表現 - 「感情」での活動

3) 恩地とフレーベル思想の接点

第3節 児童向け雑誌の興隆

1) 児童雑誌「赤い鳥」と山本鼎の自由画教育運動

2) 雑誌誌「コドモノクニ」と倉橋静三の教育観

終章 今後のフレーベル研究に向けて

第1節 結論

第2節 今後の課題

美術史ではほとんど語られることのない、フレーベルの影響力を目を向けてみませんか。

新留璃子

染め分野における 評価軸の構築

—オールオーバー概念を用いた工芸領域の拡大—

滝野澤風花

工芸って何だろう。

現代の工芸論を通じて議論されたのは、そんな工芸の定義は誰にもないということです。

明治期の近代化によって形成された工芸の定義と現代の工芸は必ずしも一致しません。独自の定義がある一方で、工芸は長い時間をかけて変化し続けてきました。工芸作品をつくる人、鑑賞する人、研究する人、みな工芸を一緒で定義できないので意見が食い違うこともあります。いま改めて工芸が内包しているものを明らかにし、その領域を拡大していく必要があるのではないでしょうか。

本研究では工芸領域の再探に立ち、工芸と美術領域の境界と評価軸を調査します。この類似点は工芸の一要素として定義の現状を測しつつ、工芸領域が緩やかに外に開いていくためのきっかけになると考えられます。

卒業論文では工芸の中から染色分野を、他領域からは絵画のオールオーバー概念を選択しました。染めとオールオーバーの「交わり」を探し、その観点から工芸作品を再考します。

はじめに - 研究の概要 -

第1章 緒言

1-1 研究目的

1-2 研究動機

第2章 研究手法・論文構成

2-1 オールオーバー

2-1-1 概要

2-1-2 評価軸調査

2-2 調査

2-2-1 基礎調査を踏まえたオールオーバーの解釈

2-2-2 2章の上記の前提・論点と研究の進捗状況

第3章 オールオーバーの活用と再考

3-1 オールオーバーの再考

3-1-1 オールオーバーから染めを再考する

3-1-2 染めからオールオーバーへ

3-1-3 3-1-2のまとめ

3-2 検証・応用

3-2-1 3章の上記の前提・論点と研究の進捗状況

おわりに - 論文のまとめ -

滝野澤風花

盥洗からみる人々の生活様式 - 衛生観と酒の需要との関わり -

芸術学専攻4年 1818013 松田真里和

序章 酒の消費の増大と衛生文化の浸透の関連性

1) 衛生観の「古」が果たす役割

2) 衛生観の輸入

3) 日本酒の表現

第1章 衛生観とは

1) 衛生

2) 衛生観における新しい衛生観の使われ方

3) 衛生観がもたらす文化価値

第2章 衛生観と酒の関わり

1) 衛生観の移入と衛生観の興隆

2) 衛生観の浸透による衛生観の使われ方

3) 衛生観の浸透と衛生観の変化 - 2章の衛生観

第3章 衛生観と酒の関わり

1) 衛生観の移入と衛生観の興隆

2) 衛生観の浸透による衛生観の使われ方

3) 衛生観の浸透と衛生観の変化 - 2章の衛生観

参考文献・URL

盥洗ってなんだ？
なんで盥洗わなんだ？

松田真里和